

## 2010年度 決算概要

## 1. 連結決算概要（経営成績）

（単位：億円）

区 分	2010年度	2009年度	対前年増加額・率	
	A	B	A-B	(%)
営業収益 ※2	8,003	8,084	△ 80	△1.0%
高速道路事業	7,430	7,517	△ 87	△1.2%
(料金収入)	5,587	5,711	△ 123	△2.2%
(その他) ※3	1,842	1,806	36	2.0%
関連事業	617	615	2	0.4%
(道路休憩所事業)	372	358	13	3.9%
(受託・その他の事業)	245	256	△ 11	△4.5%
営業費用 ※2	7,906	7,990	△ 83	△1.0%
高速道路事業 ※3	7,376	7,481	△ 105	△1.4%
関連事業	575	557	17	3.2%
(道路休憩所事業)	329	300	28	9.4%
(受託・その他の事業)	246	256	△ 10	△4.2%
営業利益	97	94	2	2.6%
高速道路事業	54	35	18	50.7%
関連事業	42	57	△ 15	△26.5%
経常利益	118	124	△ 5	△4.4%
当期純利益	77	72	5	7.6%

※1 金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しています。

※2 営業収益及び営業費用は、高速道路事業と関連事業の金額を合計したもものから、セグメント間の取引を消去したものですので、単純な合計額とは一致しません。

※3 営業収益/高速道路事業/その他には、高速道路料金無料化社会実験などの減収補てんが含まれています。また、営業収益/高速道路事業/その他及び営業費用/高速道路事業には、道路資産完成高及び道路資産完成原価がそれぞれ含まれています。

(注)事業内容の種類、性質等の類似性、損益集計区分及び関連資産等に照らし、以下のように事業区分を行っております。

事業区分		主要内容
高速道路事業		高速道路の新設、改築、維持、修繕、災害復旧その他の管理等
関連事業	道路休憩所事業	高速道路の休憩所、給油所等の建設、管理等
	受託事業	国、地方公共団体等の委託に基づく道路の新設、改築、維持、修繕等、その他委託に基づく事業等
	その他の事業	駐車場事業、トラックターミナル事業等

## 2. 連結営業概況

### (1) 高速道路事業の営業状況

- 営業収益のうち、国からの社会実験減収補てんを含む料金収入は、東日本大震災に伴う通行止め等の影響を受けつつも、全体としては新規供用等による交通量の増加及び大型車類のご利用が増加したことにより、前年比38億円増加しております。

(単位:億円)

区分	2010年度	2009年度	増減額
料金収入(補てん含む)	5,770	5,732	38
(うち料金収入のみ)	(5,587)	(5,711)	(△123)

- 営業費用のうち管理費用は、お客様に安全・安心・快適にご利用いただくための補修工事等の実施、休日特別割引・無料化社会実験に伴う混雑対策・安全対策及び雪氷対策経費の増加等により、対前年同期比72億円増加しております。
- 一方で、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構に対する道路資産賃借料が、54億円減少しております。
- 以上のことなどから、当期における高速道路事業の営業利益は、前年同期比18億円増の54億円となりました。

### (2) 道路休憩所事業の営業状況

- 営業収益は、東日本大震災による通行止め等の影響、及び平成21年9月の大型連休(シルバーウィーク)の反動等で飲食・物販の売上高が減少した一方で、テナントが撤退したガステーションの直営への切替等により、対前年度比13億円増加しました。
- 営業費用は、直営切替等に伴い仕入原価が増加したこと、東日本大震災の影響により建物修繕費が増加したこと等により、28億円増加しました。
- 以上のことなどから、当期における道路休憩所事業の営業利益は、前年同期比14億円減の43億円となりました。

### (3) 東日本大震災の影響(試算)

- 東日本大震災の対応については、グループ総力を挙げて取り組み、地震発生直後はお客様の安全の確保を図り、その後、高速道路の早期復旧に努めました。
- 震災による通行止め等により料金収入は140億円の減収と試算しておりますが、見合いの額の道路資産賃借料が減算されております。また、道路休憩所事業営業収益は8億円の減収と試算しております。  
一方で、高速道路及び道路休憩所の緊急点検・修繕の費用が発生したものの当初予定していた工事等が震災の影響で完成しなかったことにより7億円減額となりました。  
よって、2010年度決算における損益への影響は、ほとんどなかったものと試算しております。
- なお、高速道路の本復旧のうち486億円については、平成23年度第1次補正予算(5月2日の国会で成立)において国の災害復旧等事業費として計上されております。

# 1. トピックス(2010年度の主な取り組み)

## 【高速道路事業】実施した主な施策(ネットワークの整備及び各種対策)

### ■新規開通箇所



圏央道(つばJ方向からつば中央ICを望む)



北関東道(太田桐生から栃木県側を望む)

#### ●2010年度新規開通箇所(本線)一覧表

路線名	新規開通区間	開通年月日	延長
北関東道	佐野田沼IC～岩舟JCT	平成22年4月17日	5.3 km
圏央道	つば中央IC～つばJCT	平成22年4月24日	4.3 km
北関東道	太田桐生IC～佐野田沼IC	平成23年3月19日	18.6 km

### ■渋滞対策・交通安全対策(付加車線設置)



東北道矢板IC付近(上り)付加車線



関越道花園IC付近(上り)付加車線

#### ●2010年度付加車線設置箇所一覧表

路線名	付加車線設置箇所	完成年月日
東北道	矢板IC付近(上り)	平成22年7月16日
関越道	本庄児玉IC付近(上り)	平成22年12月17日

路線名	付加車線設置箇所	完成年月日
関越道	花園IC付近(上り)	平成23年3月17日
関越道	渋川伊香保IC付近(上り)	平成23年3月17日

### ■無料化社会実験の実施(13路線 約700kmの区間で実施)



社会実験区間の対策状況



秋田道 昭和男鹿半島IC付近(H22 お盆)

**【関連事業】実施した主な施策**

■ 休憩施設のリニューアル



関越道 寄居星の王子さまPA(H22.6.30オープン)  
 関越道 Pasar三芳Ⅱ期 (H22.12.1オープン)  
 常磐道 ドラマチックエリア友部<<友部SA④⑤>>  
 (H22.12.15オープン)

■ 休憩施設の新設



北関東道 笠間PA(H22.12.21オープン)

■ お客様サービスの向上



地域産品応援フェア  
 (H22.6.19～7.19)  
 (H23.2.1～2.28)

**【防災】東日本大震災の主な被災状況と応急復旧状況**

■ 常磐道(水戸～那珂)



被災後の道路損傷状況 (3月11日)



応急復旧後の状況 (3月17日)

■ 東北道(平泉前沢～水沢)



被災後の道路損傷状況 (4月8日)

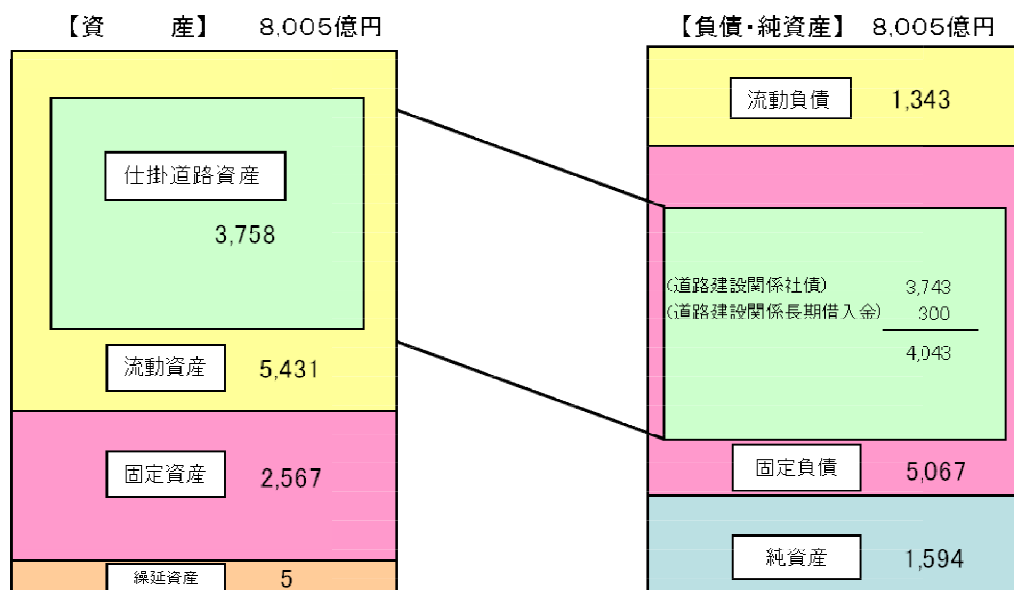


応急復旧後の状況 (4月10日)

## 2. 財政状態の概要(連結貸借対照表)

### 《資産・負債の構造》

- 道路建設のための固定負債が、仕掛道路資産に対応しています。



## 3. 個別決算概要(経営成績)

(単位:億円)

区 分	2010年度	2009年度	対前年増加額・率	
	A	B	A-B	(%)
<b>営業収益</b>	<b>7,712</b>	<b>7,813</b>	<b>△ 100</b>	<b>△1.3%</b>
高速道路事業	7,364	7,447	△ 83	△1.1%
(料金収入)	5,587	5,711	△ 123	△2.2%
(道路資産完成高)	1,586	1,711	△ 125	△7.3%
(その他)※2	189	23	165	693.7%
関連事業	348	366	△ 17	△4.7%
(道路休憩所事業)	103	109	△ 5	△5.1%
(その他の事業)	245	256	△ 11	△4.5%
<b>営業費用</b>	<b>7,657</b>	<b>7,772</b>	<b>△ 114</b>	<b>△1.5%</b>
高速道路事業	7,332	7,439	△ 106	△1.4%
(道路資産賃借料)	3,949	4,004	△ 54	△1.4%
(管理費用)	1,796	1,723	72	4.2%
(道路資産完成原価)	1,586	1,711	△ 125	△7.3%
関連事業	324	332	△ 7	△2.4%
(道路休憩所事業)	78	75	2	3.7%
(その他の事業)	246	256	△ 10	△4.2%
<b>営業利益</b>	<b>55</b>	<b>41</b>	<b>14</b>	<b>34.6%</b>
高速道路事業	31	7	23	306.4%
関連事業	24	33	△ 9	△27.2%
<b>経常利益</b>	<b>64</b>	<b>49</b>	<b>14</b>	<b>28.2%</b>
<b>当期純利益</b>	<b>24</b>	<b>22</b>	<b>1</b>	<b>8.6%</b>

※1 金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しています。

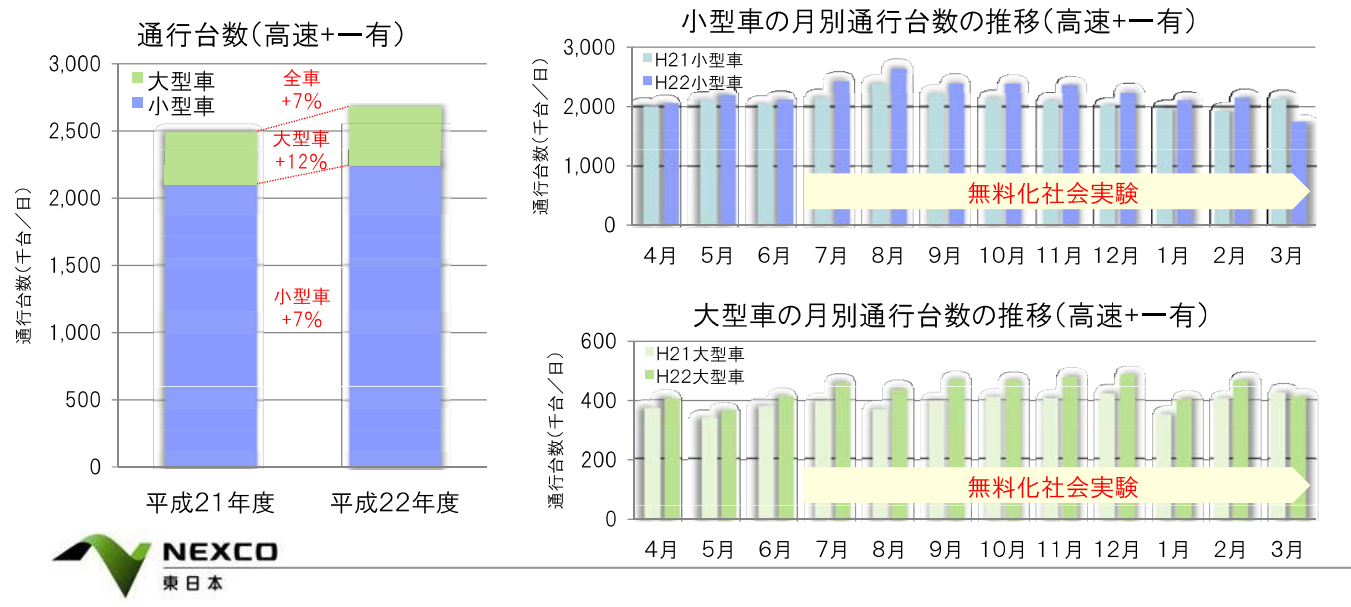
※2 営業収益/高速道路事業/その他には、高速道路料金無料化社会実験などの減収補てんが含まれています。

# 2010年度の営業概要 (通行台数)



## (1) 通行台数(前年同期比)

景気回復や6月末から実施した無料化社会実験などにより通行台数は順調に伸びました。東日本大震災の影響により3月は減少に転じましたが全体としては約270万台/日で7%増となりました。  
車種別では、小型車が7%増加、大型車が12%増加しました。

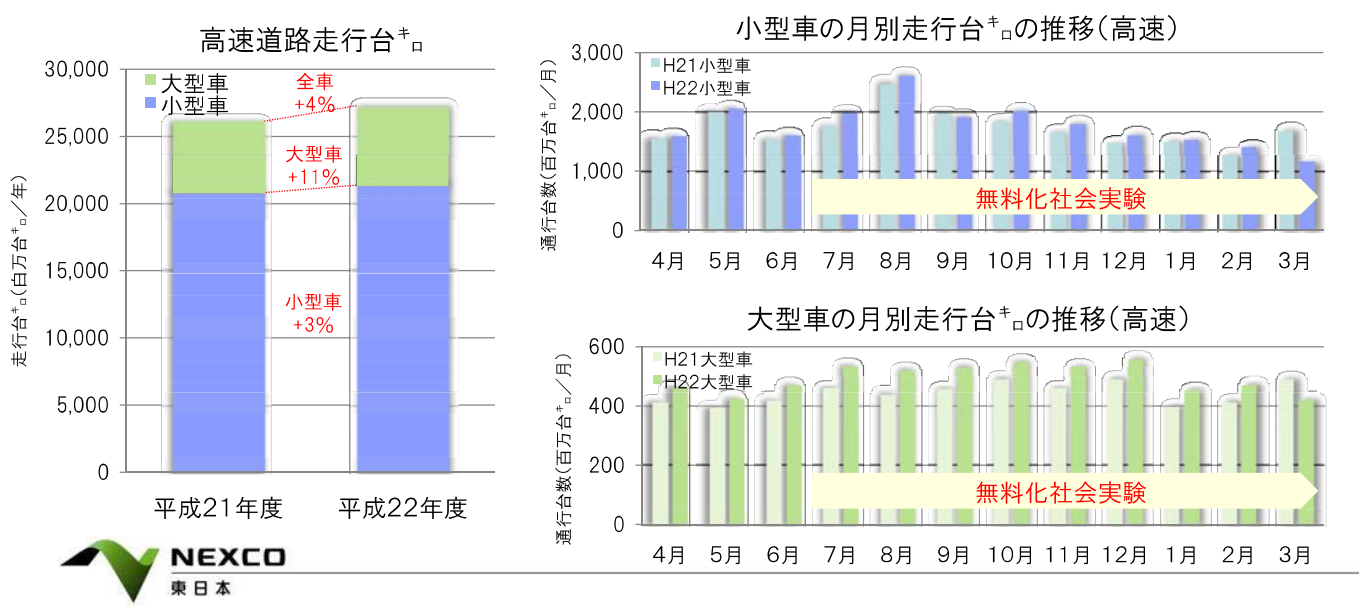


# 2010年度の営業概要 (高速道路走行台<sup>※</sup>)



## (2) 高速道路走行台<sup>※</sup>(前年同期比)

景気回復や6月末から実施した無料化社会実験などにより走行台<sup>※</sup>は順調に伸びました。東日本大震災の影響により3月は減少に転じましたが全体としては約270億台<sup>※</sup>/年で4%増となりました。  
車種別では、小型車が3%増加、大型車が11%増加しました。



# 2010年度の営業概要（休憩施設売上高）



## (3) 休憩施設売上高(前年同期比)

飲食・物販とガステーションを含めた全体の売上高は、微増(約1,400億円で1%増)となりました。飲食・物販の売上高は、東日本大震災の影響や昨年9月の大型連休の反動等で減少しました。ガステーションの売上高は、単価上昇等により増加しました。

